読者の声

一号からの愛読者です。〝釜〟生活十三年、労務者としての貧しさは当然ですが、心の豊かさを求めています。酒、ギャンブル、女＝アンコへ労務者＝だから貧乏が当然となるのでしょうか。否。現体制では、ピンハネが文字通り一割引でなく、三割引、サンハネだからです。

今後、貴委員会で、サンハネ糞者＝リストを作成、特集号をだして下さい。

山本弘道（42才）

★情報を当委員会まで知らせて下さい。

「里手」及び「労務者渡世」の本を始めて読ませていただいて非常に大きな感動を覚えました。

丁度この十年間碁の飯場を転々として参りましたが体をこわして、現在はあまり現金仕事にもいけず、不安な毎日を過ごして居りますが、何とか再起しようと思って其対策を弱い力で立てゝ居ります。そして我が人生の終りは釜ヶ崎であり、正直者や弱い者が団結してもっと良い釜ヶ崎になる様に祈って居ります。つまらぬことで家を飛びだしたり、腹を立てたりして来ましたが、今だ友人が一人も居りません。

奥田幹夫（52才）

特集あそび面白く拝見。ドイツ人の著に「ホモ、ルーデンス」の本があります。宗教も政治も、芸ジュツも一種のアソビといえる筈です。その点特集は失敗でした。常に種本を探して編集されたらもっとよいものが出きる筈です。哲学的に位置づけ、そしてそれをふくらますことです。

なかじまひろし（48才）

★　★

釜ヶ崎風景

労務者にはなぜこれほど酒飲みが多いのだろう。酔っぱらって道端で寝ている奴、ときには人が立ち小便するような溝の際で寝ているのもおる。クサくはないのだろうか。いやクサいなんて思うような人間らしい気持

など彼らにはない、犬にも劣るヌタどもだ。そのようなヌタが溢れている街それがこの西成の釜ヶ崎だ。そしてそのヌタどもがいる限り釜ヶ崎という名はこの西成にいつまでも残るであろう。

釜ヶ崎解放運動はまず町のヌタどもの追放から、、、、

吉川英雄（32才）

（係）当編集委員会も酒飲みばかりです。

★　★

「労務者渡世」釜ヶ崎通信落手せり、長いこと入院していたので、中原氏に手紙をすることもできなかったが、相変ず〝渡世〟を編集しているのですか？

此の度は大変にデラックスな本を送って頂きありがとう。皆さんによろしくお伝へ下さい。私の方は相変ず檻の中です。当方三食昼寝付、無料です。シノギ方々遊びに来ませんか？ 委員会の発展を祈る。諸活動を頑張って下さい。

駒　金哉（東京小菅）

（係）中原君は当編集委員会を昨年離れました。

★　★

文学賞を設定されたそうで労務者渡世賞が一回の成功を祈ります。

中原哲也がンバレ！

無署名

★　★

十七号に「中原氏が帰って来たら日刊になる」との事ですが大体いつ頃になるのでしょうか。楽しみにして待っている一人です。

以前は「渡世」の売り出しが三、四日遅れても「誠に申し訳ない」との御詫びが書き出されて有って編集の苦労も多少なりとも知っている私には、なっとく出来たことでしたが、最近号の遅れはちょっとひどいと思います。時季に合せて投稿してもずれたりして、カッコワルイ話です。

「健全娯楽」との事ですが、それはパチンコ屋のコマーシャルにしか過ぎない感じで、娯楽をする人の心構え次第で健全にもなり、不健全にでもなるのではないでせうか？ 極端な言い方をするならば娯楽に健全なんて有り得ないともいえます。

チョット言い過ぎで申し訳ない感じですが……編集子の皆さん頑張って。

鈴木秀一（ろキ）

（係）中原君は当編集委員会と一緒にやる気はないようです。「愛ケ崎ニュース」に書いてありますが、下諏訪労働組合と一緒に下諏訪労働者」という雑誌を発行しています。尚、郵便局の話では、労務者渡世編集委員会代表のカタガキ、名称は今だに使ってるそうですから、その内：一緒にやれるかもしれませんが、あまり期待できそうもありません。

☆　☆

労務者渡世万歳。

共産党は愛国を叫び、富士をシンボルとする。東北ベトナム革命後の流血の惨、今日世界は激動している。

地球の1度は八度も移転している。

今日の世界、日本のロッキード騒ぎ、天下は悪に亡びず遂に亡ぶ。

長山正貴（ろオ）

☆　☆

深まりゆく秋、編集部の方々の地道な精神、敬意を表します。

西成十三年の生活を遂に離れることになりました。

色々の事情で、帰り難いふるさとに戻りました。深意とは逆に、なにかさみしい気がします。

せめて「労務者渡世」でも読ませてもらい。飯場生活、現金仕事のこと、三角公園のこと、立ち飲みやのこと、そして、偲びたいと思います。

では、又。八幡駅前にて。

今宮　新（ろオ）

☆　☆

（係より）

この欄は巻末ハガキの投書欄です。どんな意見でものせるつもりです。

巻末ハガキは「受取人払い」つまり当方が払うのであり、読者のあなたは、ただ書いてポストへ入れれば、切手なしでも当方に届きます。

ジャンジャン出してネ。

飯場風景

日野善太郎

（三）

食堂の一角が仕切られて、事務所になっている。

事務所には小窓があって、名刺位に切った紙片と、鉛筆を入れた箱が置いてある。

紙に品名と数と、自分の名を書いて、小窓から差し出すと、その品物が貰える。

代金は給料のときに計算して引かれる。

日給三千五百円。食事八百円。

食堂は穢ならしく、食事はまずい。

弁当の量は少なく

にぎり飯にしたら一箇分の量だ。

それで土方をやれという。

食堂の隅にはギャンブルマシンがある。

コーラの自動販売機もある。
小銭両替致します、と書いてある。

事務所の小窓のそばには、何枚も貼り紙がしてある。
「ラーメン　一五〇円
ビール　三五〇円
酒　二五〇円
タオル　三〇〇円
軍手　一八〇円
その他　いろいろあります」

「前借は最初の三日間は五百円
四日目からは千円」

「赤まむしドリンク入りました
栄養補給して
明日も元気に頑張りましょう」

（2）

信号が赤になると
車の窓から

いやでも　そいつが目に入る
ベニヤ板をぶつけた立札一つ

煤けた桜の木があって
電柱があって
電柱には　建売住宅の広告の貼り紙が
風に吹かれて　はがれかけて
千二百八十万円が宙におどっている

道の向う仕舞になっていて
そのまた向うに飯場があって
昼間はいつも　ひっそりしている
そんな風景の中で
ベニヤ板の立札一つ
赤と黒のマジックで下手糞な殴り書き

「人夫あります」

大阪郊外のある街道
信号が赤になると
いやでも　そいつが目に入る

（3）

鉄パイプ製二段ベッドが　ぎっしり詰めこまれているが
物置きではない証拠に
その隙間に辛うじてもぐりこんで
人間が棲んでいる
たいていは点け放しにされているテレビが一台
部屋の隅に置いてある

窓がないから昼でも暗くて
男たちの垢くさい体臭が
むっと
立ちこめている

この間　一人死んだ
六〇位の老人で
どうしてこんな人がここにいるのか
よぼよぼと歩く姿もおぼつかない

小型トラックの荷台に　一人では乗れなくて
仲間が手を引いたり　尻を押したり
「じいさん、ちゃんと前向いて歩けよ」
と、誰かが戯れに背中を押したら
そのまま　前につんのめった

死んだのは夜中　　だろうか
となりに寝ていた男が朝早く気づいた
「あのじいさん　息してませんぜ」
事務所へ告げると
「しっ　黙っていろ」
と　親方は昏の前に肥った人差指を立てた

みんなが仕事に出たあと
どこからか黒ぬりの乗用車が来て
大急ぎで死人を積んで走り去った
どこへ連れて行かれたのか知らない
名前も　生まれた土地も　家族の有無も
誰も知らない。
死んだことさえ　たいていの仲間は知らないだろう

こんなことは
それほど珍らしいことではないそうだ

垢臭い男たちの体臭には
だから死臭もまじっていて
窓がないから昼でも暗い

（AMAZCN　NO162より転載）